

4月15日：VN指数は今年最大の下落率を記録 (VN-Index -4.70%)

- VN指数は下落して取引を開始した。中東情勢への懸念を背景に、アジア株全般がリスクオフの展開となった。
- 一日を通じて売り方優勢で推移した。取引終盤、市場は大きく弱気に傾き、最終的に今年最大の下落率を記録した。
- ドンの対米ドル為替レートが下落していることも、中央銀行による為替介入、ひいては市場金利の上昇の懸念材料になったことが考えられる。
- 特に下げ幅が大きかったセクターは、金融、化学、建設・資材、不動産、石油ガスなどだった。一方、ヘルスケアが最も下落が小さかった。
- 40銘柄が上昇、30銘柄が下落、475銘柄が変わらずとなった。
- 流動性は39%増の33兆ドンとなった。

VN30指数は複数の銘柄がストップ安を記録 (VN-30 -4.42%)

- 大型株で構成されるVN30指数は、1銘柄を除き、すべての銘柄が下落した。
- ストップ安を記録したのは、MSN (-6.95%)、BID (-6.93%)、SSI (-6.92%)、BCM (-6.89%)、GVR (-6.88%)、VRE (-6.83%)。
- SHB (+0.44%)は唯一上昇した。

セクター・個別株の動き

- SHB (+0.44%)は、取締役会副会長のド・クアン・ビン氏が同社株の大口購入登録を行い、一時ストップ高を記録した。4月19日から5月17日までの間で、約1.2億株を購入する計画。
- OCB (-5.39%)は本日、2024年度年次株主総会を開催。定款資本を24.7兆ドンに増額することに加え、既存株主への20%の配当計画が承認された。
- 外国人投資家は1兆2700億ドンの売り越しとなった。MWG (-4.04%)が最も買い越された。一方、VHM (-4.72%)やCTG (-6.82%)が売り越された。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。